

# 県 南 思 考 Vol.5

## 特集：よみがえれ！田畠

あけましておめでとうございます。今年も「県南思考」では南房総選出の県会議員がさまざまなテーマに取り組んで、市民の皆さんにレポートをお届けしていきます。寅年を迎えて最初の号は耕作放棄地に迫ります。南房総でも急速に広がっている耕作放棄地。人の手が入らなくなると、とたんに田畠は荒れていきます。豊かに作物が実った大地は人の心を豊かにさせます。その一方で、荒れた田畠ほど、人の心を寒々とさせるものはありません。いま、その耕作放棄地を、もういちど豊かな土地によみがえらせようと南房総各地でさまざまな取組みが行われています。まずは、館山市の暖地園芸研究所からレポートは始まります。

館山市山本・発

### 「暖地園芸研究所」のしごと



## 特集：よみがえれ！田畠

### 結びの対論

秋山県議×木下県議×亀田県議

まずは農業というものを  
「生活ができる産業」にすること。  
それが第一歩ではないでしょうか。

**秋山** 私は農家の生まれなので、よく覚えているんです。小学生の頃、昭和20年から30年代にかけてですが、どこを見渡しても耕作放棄地なんてありませんでした。

**亀田** 鴨川だってそうです。田畠はきれいに整っているし、山へ入ればミカンが育ち、その途中にも段々畑がこしらえてあって、さまざまな作物が育っていました。そんな風景しか記憶にありませんね。

**秋山** それがいつ頃から変わってしまったんだろうと考えてみると、やはり高度成長期あたりからではないでしょうか。

**木下** 昭和40年代ですね。若い人が勤めに出るようになった。たしかに農業をやるよりも、安定した収入が得られるし、定期的な休日があって、ボーナスももらえるとなると、そっちの方が魅力ありますものね。

**秋山** やはり、この問題の背景には、お米だけでは生活できなくなってきたという現実があると思うんです。

**亀田** その昔、「ノーキヨーさん」とマスコミで話題になりながら、農家のおじいさん、おばあさんたちが大歓声でヨーロッパやアメリカなどの海外旅行へ団体で出かけていった。あれは農家がもうかつていた時代があったからなんでしょうか。

**木下** いちばん米価の高い時代で、お米一俵あたり18,000円ぐらいだったでしょうか。それが今では12,000円前後。機械を入れて、肥料を使ってとなると、とても採算が取れない。

**秋山** いくら作物を作っても売れないと、せっかく作ってもイノシシに荒らされる、人手もない、「だったらやめるか」となってしまって、放棄する耕作地が増えていく。

**亀田** ですからお米だけでなく、どうしても別の作物を育てていかなければならぬはずなんです。限られた耕作地の中で、いかに生産性を上げ、高い収益が期待される作物を育てていくか。その意味では、暖地園芸研究所の活動は参考になりましたね。

**木下** 直売を視野に入れているというお話をしたが、たしかに最近は、全国どこでも直売場が観光客の人気を集めています、ニュースなどでも、盛んに取り上げられている。

**亀田** クルマで遊びに来たドライバーがおみやげ代わりにトランクいっぱい積んで帰っていく。都会のスーパーで買うより、収穫してだから新鮮だし、土がついたままの大根なども喜ばれているようです。

秋山 光章（あきやま みつあき）

館山市選出  
昭和 21 年 9 月 21 日生まれ



事務所 /  
〒294-0045 館山市北条 2570-11  
TEL : 0470-23-5252 FAX : 0470-23-5251  
<http://akiyamamitsuaki.jp/>  
e-mail : [ohshimiz@poppy.ocn.ne.jp](mailto:ohshimiz@poppy.ocn.ne.jp)

木下 敬二（きしときいじ）

南房総市・安房郡選出  
昭和 23 年 5 月 17 日生まれ



事務所 /  
〒295-0005 南房総市千倉町牧田 164-1  
TEL : 0470-44-4111 FAX : 0470-44-4112  
<http://kishita.awa.jp/>  
e-mail : [kishita@awa.or.jp](mailto:kishita@awa.or.jp)

亀田 郁夫（かめだいくお）

鴨川市選出  
昭和 27 年 2 月 16 日生まれ



事務所 /  
〒296-0041 鴨川市東町 665  
TEL : 04-7099-0190 FAX : 04-7099-0191  
<http://www.kamedai90.com/>  
e-mail : [ikuo@leaf.ocn.ne.jp](mailto:ikuo@leaf.ocn.ne.jp)

### 県南思考 Vol.5

発行：2010年1月1日  
編集：「県南思考」編集委員会  
デザイン：野村友紀

南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本紙をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽に寄せください。





パッション・フルーツ、温室メロン、金魚草など多くの農産物がテスト栽培されている

周囲にイノシシのいやがるシソを植える方法や、間伐竹を使った防護策を開発するなど、あまり経費をかけずに被害を防ぐ方法も研究し、広く普及につとめています。

耕作放棄地が増える、田畠が荒れる、藪になる、イノシシのすみかになる、さらにイノシシが侵食する、また田畠が荒れるという、有害鳥獣の負のスパイラル。

これを逆回転させて、売れる農作物を開発し地域に広め、そこで収益を上げることによって、田畠が整備され、もうかるからさらに耕作地が広がって、結果的にイノシシが遠ざかっていく。

「きれいに農地が整地されるとイノシシが近づきにくくなることはわかっていますから、効果的な防護柵などを併用することで、少しづつ耕作放棄地を減らしていくければと考えているんです」と、小山所長。

大切な農地を有害鳥獣から守り、豊かな

実りでもういちどよみがえらせるために、暖地園芸研究所の息の長い研究が続いている。



●千葉県農林総合研究センター／暖地園芸研究所

〒294-0014 館山市山川1762

0470-22-2961

ホームページ：[千葉県農林総合研究センター](http://www.ehimeagri.go.jp/researchcenter/) 検索

明治41（1908）年、東葛飾郡中山村（現：千葉県市川市）に創立。その後、暖地園芸研究所の前身である安房分場が安房郡郡古町（現：館山市）に新設された。主な活動は、温暖な島嶼地域の気候風土に適した果樹、野菜、花卉などの生産技術を研究すること。観光農業を支援するなど、地域の活性化に大きく貢献している。



館山市山本・発

### 「暖地園芸研究所」のしごと

売れる、しかも作りやすい。  
風土に合った農作物を研究、開発することで、耕作地の回復をはかる。



お話を伺った小山所長（右）と赤山室長。背景は暖地園芸研究所全体のイラストマップ

ります。そうしたときに聞く現場の声が研究のヒントになることも少なくありません。一方が研究し、一方が教わるということではなく双方向で情報を交換しながら、一緒にになって開発していく。そんな意識で研究に取り組んでいます

こうした研究の結果、温室メロン、タネなしビワ、花卉類ではカラーなどのヒット作が生まれ、商品として消費者の高い人気を集めました。

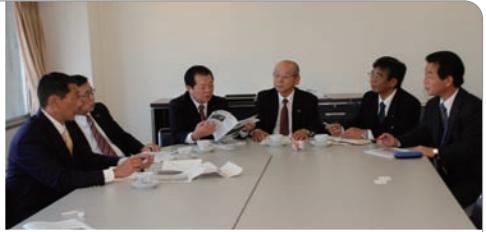
### 効果的なイノシシ対策

一方、有害鳥獣対策でも、研究所は一定の成果をあげています。

近年、鳥獣害は拡大する一方で、平成20年度だけで安房4市町の被害面積が138.9ヘクタール、金額にして1億2800万円。届け出のない数字も含めると年間で2億円近い被害が出ていると推定されています。

有害鳥獣の代表的なイノシシ対策。

暖地園芸研究所では各地に監視カメラを設置して、その生態を調べることから始め、さまざまな防護方法を研究。



（左から）亀田、木下、秋山の各県議とJA安房の加藤常務理事、 笹子部長、玉川課長



## J Aにおたずねします。 JA安房 担い手対策部

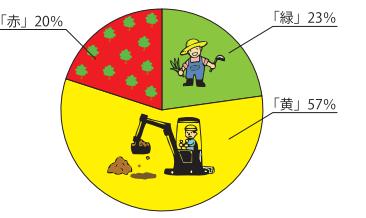
なぜ耕作放棄地が広がってしまったのか。現実にどれくらいの広さがあるのか。館山市にあるJA安房をお尋ねし、その現状と対策をうかがいました。

### 南房総全体で耕作放棄地は どれくらいの広さなのでしょうか。

データをお見せしましょう。館山市、鋸南町、南房総市、鴨川市。この南房総の主要エリアに限定したデータですが、農地面積が合計で11,239ヘクタール。その内、1,059ヘクタールが耕作放棄地となっています。ひとことで耕作放棄地といっても、そのレベルによって、いくつか段階があります。簡単な草刈りなどで回復が可能な土地を「緑」、大型重機などを用いないと回復できようがない土地を「黄」、ほぼ山林と化しているものを「赤」として区別していますが、具体的な広さとしては、それぞれ「緑」が242ヘクタール、「黄」が607ヘクタール、「赤」が210ヘクタールとなっています。

### ●耕作放棄地の分類

黄と赤を合わせると、ほぼ8割に達し、大規模な改良を行わない限り、元のような耕作地には回復できない厳しい現状を示している。



### 耕作放棄地増加の原因を どのように分析していますか。

まず国の施策として行われてきた減反があります。これによって農家の一般的な特長として、一軒あたりの耕作面積が0.3から0.5ヘクタールと非常に狭いという特性があります。そのため、なかなか機械化してコストダウンがはかれない、そこで、集落として集落営農を実現するための担い手育成。農家一戸一戸が高価な機械を買うなどのムダを省き、農業全体の合理化を進めようとしています。一方、集落としてむずかしい場合は、JA出資型の農業生産法人等での営農活動も検討しています。同時に、稼げる品種開発にも取り組み、とくに夏作物に力を注いで、具体的にはスナップエンドウ、ツルなしインゲン、枝豆などの普及に努めています。いずれにしても農業の担い手を増やす、効率的な営農を実現し、農業に携わる方々に少しでも収益を増やしていただくことをめざしバックアップしていく。それがJAの基本姿勢です。

### この問題に対する JAの取組みを教えてください。

南房総で農業を営んでいる農家の一般的な特長として、一軒あたりの耕作面積が0.3から0.5ヘクタールと非常に狭いという特性があります。そのため、なかなか機械化してコストダウンがはかれない、そこで、集落として集落営農を実現するための担い手育成。農家一戸一戸が高価な機械を買うなどのムダを省き、農業全体の合理化を進めようとしています。一方、集落としてむずかしい場合は、JA出資型の農業生産法人等での営農活動も検討しています。同時に、稼げる品種開発にも取り組み、とくに夏作物に力を注いで、具体的にはスナップエンドウ、ツルなしインゲン、枝豆などの普及に努めています。

主な研究対象をあげていくと、果樹では柑橘類、ビワ、パッショングルーツ。

ビニールハウスにはイチゴや温室メロンが育ち、花摘み用として、金魚草、ストックなども研究栽培されています。



ビニールハウス内で担当者から害虫対策のレクチャーを受ける